

洋野町教育振興会 宿戸実践区

- 「テーマ」
- 震災を超えて・新たな教育課題への取組
組織の見直し・地域コミュニティ再生の取組
 - PDCAサイクルによる推進の取組
年間を通じた全県共通課題・モデルプログラムの取組
 - 地域ぐるみによる「いわての復興教育」の取組
防災教育・被災地支援交流・地域を担う人材育成の取組

活動のよこす



『地域ぐるみで推進する「いわての復興教育」』

～地域・行政の協力を得て小・中学校をつなぐ水産業の体験学習～

1 地域の教育課題

- (1) 地域の主要産業である水産業の体験学習の継続と
小中連携による体系化
- (2) 家庭学習と読書の習慣確立と内容の充実
＜課題の裏付けデータ＞
- (1) について 体験学習の小中連携が不足
- (2) について 数値は% () 内は県P連調査
- 平日家庭学習をしない 小 2.2 (1.4) 中 5.4 (3.0)
- 休日家庭学習をしない 小 8.9 (6.7) 中 5.4 (3.9)
- 平日読書をしない 小 27.4 (29.9) 中 52.7 (47.8)
- 休日読書をしない 小 8.9 (31.0) 中 44.6 (45.1)

2 役割分担と年間の計画

- 課題解決のためのそれぞれの役割
- ＜子ども＞活動の主体
 - ＜保護者＞活動の支援
 - ＜先生＞活動の計画、指導
保護者・地域・行政との連絡調整
 - ＜地域＞活動の支援、内容により指導
 - ＜行政＞活動の支援、内容により指導
- 課題解決のための年間の取組
- ＜4月＞修学旅行での販売体験 (中3)
 - ＜5月＞ウニの森づくり植樹祭 (小4～6)
 - ＜6月＞津波に関する出前講座 (小4)
 - ＜7月＞水産教室 (小5)
生き方講演会 (中/県栽培漁業協会)
種市丸乗船体験 (小)
AED講習 (小中)
 - ＜8月＞塩ウニづくり体験 (中1)
 - ＜9月＞着衣泳講習 (小5～6)
実践区講演会 (地域/講師民話語り部)
 - ＜10月＞稚ウニ放流体験 (小2)
岡谷稲荷の劇発表 (小3)
文化祭実践発表・販売体験 (中)
 - ＜11月＞秋の恵み(鮭)給食会 (小2)
家庭学習・読書アンケート (小中)
 - ＜12月＞新巻づくり体験 (中2)
 - ＜2月＞町教育振興大会 (事例発表)

3 主な取組の様子

- 【小学校】
- ウニの森づくり植樹祭 (八木地区山林)
役場・振興局・漁協・地区民と小学4～6年で
組織される海づくり少年団によって、植樹活動を
実施。
 - 津波に関する出前講座
県北広域振興局職員を講師
に、小学4年生が津波のメカ
ニズムと防災について学習。
 - 秋の恵み給食会
役場・振興局・漁協が協力、
八木の定置網で取った鮭を給
食に提供。
- 【中学校】
- 塩ウニづくり体験(宿戸漁港)
漁協・同女性部・保護者の
指導協力のもと、中学1年が
3日をかけてウニ取りから塩
ウニづくりを行った。
 - 新巻づくり体験(宿戸漁港)
漁協の指導により、中学2
年が新巻づくりを体験。
 - 修学旅行での販売体験(都内)
漁協の指導により、中学3
年が修学旅行先で販売を体験。
販売を通じて関東在住の洋野
町出身者との交流も図った。



町長さんと植樹する



振興局の津波出前講座



塩ウニづくり体験



修学旅行での販売体験

4 課題解決を判断する評価の方法

- 本報告は、これまで小中学校が独自に実施して
きた活動で、連携協議や重複活動の精選が課題で
あった。数値的な評価は困難だが、次の点を成果
ととらえている。
- (1) 小中学校間で学習を見たり協議したりして、
学習の系統を構築できた。
 - (2) 役場・振興局・漁協ほか地域の指導協力を
得て、小学校は見て気付く、中学校はキャリ
ア教育の視点をふまえた活動の広がりがある。